

1 年次

学期	月	学習のアドバイス
前期	4	●中学生から高校生への学習スタイルへ転換するのが、高1スタートでの最大の課題です ・中学と高校の違い：授業の進度が速い。予習しないと授業についていけない。 ・予習をすることで授業のより深い理解に結びつき、大学入試への対応力を付けることになります。 学習方法体験セミナーで学んだことを実践しよう。 ●高校学習の決め手は「予習」です ・予習とは「自分がすでに持っている知識を用いて、新しいことに取り組む」ことです。 ・予習をすることで授業のより深い理解に結びつき、大学入試への対応力を付けることになります。
	5	●定期考査が高校3年間で左右します ・何を、どのレベルまで、どのように準備すれば、定期考査でどんな結果が出るか実感することが大切です。 ・成功すれば、自分に合った学習法を早期に身につけることができます。うまくいかなかった場合には、次はどうするべきかしっかり考えましょう。自主的にテストの見直しをしていくことが重要です。 ●定期考査での好スタートにはゴールデンウィークの過ごし方がポイントになります ・スタートが出遅れたと感じても、4月は授業日数が少ない。ここで復習すれば大丈夫です。
	6	●テストを有効に活用しよう ・テストは受けることだけに意味があるのではなく、見直しすることに最大の意味があります。テストは学力をつけるための生きた問題集です。間違えた問題の見直しを徹底し、同じ間違いを繰り返さないようにしましょう。 ●ノートづくりが、授業を中心とした具体的な学習法です ・ノートこそが、オリジナルの参考書になります。ノートを足場にして、「忘れる」「思い出す」を繰り返して定着度のアップを図ることが定期考査対策であり、それを積み重ねていくことで高1での学習方法が確立されます。
	7	●高1の夏休みのポイントを知ろう ・夏休み後の勉強についていけるかどうかは、この夏休みにかかっています。 ・2つのポイントがあります。 ○1学期の弱点を克服し、自信を持って授業再開を迎えられるようにしよう。 ○生活習慣を固定して学習に励み、生活リズムを崩さずに授業再開を迎えよう。(補習もしっかり活用しよう)
	8	●自主的・計画的に学習する習慣をつけよう ・高校での学習内容が一層レベルアップする後期以降に向け、高1夏休み最大の課題です。自主的に勉強する習慣をつけるために、計画をしっかり立てて学習に励もう。 ●進路意識を高めて学習目的を明確にしよう ・オープンキャンパスや各種体験活動に積極的に参加し、進路についての考えを深めることが正しい文理選択、学習意欲向上のカギとなり、学習の目的も見えてきます。
	9	●夏休みから早く切り替えよう ・学習実態調査などを利用して、夏休み気分を一掃し、早く通常の4点固定に戻そう。 ●優先順位をつけ、やるべきことをやりきろう ・秋は学校行事などで、学習時間が割かれたり、不規則な学習になったりしがちです。学習も学校行事準備も計画的に取り組み、充実した学校生活を送ろう。
	10	●「予習→授業→復習」のサイクルを再確認しよう ・後期は高校に入ってから学習習慣がそのまま成績に反映され、学力差があらわれてきます。定期考査の対策を契機に、生活習慣や学習方法を見直してみよう。 ●将来を見通した進路選択をしよう ・「総合的な探究の時間」に調べたり聴いたりしたことを元に、興味・関心に応じた自らの進路を実現するための文理選択をしよう。
	11	●「授業→定期考査」の土台があって、実力・校外模試で成果が出ます ・日々の「予習→授業→復習」での小範囲の復習、定期考査を区切りにした中範囲の復習の土台があって、はじめて実力テストや校外模試で成果が出ます。週末を活用して、復習を進めてみよう。 ●「準備して受験」する実力テスト・校外模試にしよう ・実力テスト・校外模試も自分の学習計画に組み込もう。受験後に復習し、次の試験までの学習課題を自分で立てます。実力・校外模試を区切りに大範囲の復習をすることにより、「合格へのサイクル」を確立させよう。
後期	12	●2年になるまでの3ヶ月計画で苦手を克服しよう ・苦手克服には3ヶ月以上かかります。つまり、2年になる前までに克服するには、冬休みから取り組まなければなりません。冬休み課題を効果的に活用できるように計画しよう。 ●冬休み中に苦手克服に着手して自信をつけよう ・1月からは授業時間も少なく、新たなことを学ぶ量が少ないので、冬休み～春休みの2段階で取り組めば苦手は克服できます。優先度の高い1教科を選び、教科担任の先生にも取り組み方を相談してみよう。
	1	●自分のやりたいことを考えてみよう ・年末年始は、たくさんの大人から進路に関する話を聞ける良い機会です。情報収集をしてみよう。 ●1年生での共通テスト対策はどうしたらよいのでしょうか ・みなさんは2年後に共通テストを受験します。共通テストは、授業で学習したことを反復し、さらに応用できるようにすることで対応することができ、それがそのまま共通テスト対策になります。つまり、日々の授業を中心とした学習こそが共通テスト対策なのです。すでに解くことができる問題もあります。挑戦してみよう。
	2	●定期考査レベルで身につけるべき基礎・基本を反復整理することが、1～3月期、春休みで最低限やるべきことになります ●好きな科目を更に伸ばし、深めることが入試対策です ・入試では学んだことを理解し、理論的に活用できることが大切です。得意科目（分野）を専門的に深めていくのが大学です。 ・「好きな科目」を、予習によって得意に育て、復習で活用力を身に付け、得点科目に仕上げていこう。
	3	●苦手克服はこの春休みに終わらせよう ・第5回考査が終わると登校日が不規則になります。この特別授業・補習の間の休みこそ、弱点克服の絶好の機会となります。冬休みにできなかった苦手科目の克服のために、まとまった時間を取ることができます。また、得意な科目では発展的な学習をする時間をとることもできます。 ●自主的な学習習慣を高めよう ・自主的な学習時間がとりやすいこの時期にこそ、机に向かう習慣、集中して学習する習慣を付けよう。 ・生活習慣を固定して、計画的に取り組むことが2年次生の良いスタートを切るきっかけとなります。